

第4回トンボ池等湿地環境再生検討会 議事要旨

日 時:平成23年10月6日(木)13:30～15:30

場 所:水辺共生体験館 セミナー室

1. 開会

2. 挨拶

3. 審議事項

下記の審議項目に対し、事務局より内容等の説明を行い、以下のような主な意見を頂いた。

<審議項目・説明内容>

1)トンボ池等の再生対策の基本方針

2)再生対策の報告

3)平成23年度調査結果及び速報

4)トンボ池等の再生対策

5)連携・協働・モニタリング

・トンボ天国親子探検隊活動報告

・学校プールのヤゴ捕獲・トンボ池への放流

<委員の皆様の主な意見>

1)トンボ池等の再生対策の基本方針

2)再生対策の報告

- ・ トンボ池を見に来たお年寄りに伺ったところ、トンボ池の環境が良くなったと感想をいただいた。
- ・ マダケが除去され、非常に開放的になった。
- ・ 流れのある場所に住むトンボが生息できる環境は周りに結構ある。一方で、沈水植物の生育している池のような環境は減少している。その中で、そこをすみかとするトンボが生息できる環境を復元したのは意義のあることと思われる。

3)平成23年度調査結果及び速報

- ・ トンボ池を、昔のように水の流れを復活させるのは不可能である。トンボの生息を確保するためには、冬季に水を確保することが一番のポイントである。
- ・ 堤防の北側に住んでいるが、今年チョウトンボが庭にたくさん飛んでおり、トンボ池一帯でトンボが増加したことを実感した。
- ・ 調査結果から、湿地再生の第一段階は成功したと思われる。今後は維持管理が重要である。

4) トンボ池等の再生対策

- ・ 竹の侵入とともに、ヤブガラシやクズも増加するのではないかとと思われる。トンボ池の環境を保持するためには、竹をタケノコが生えた時期に切って、元から絶やさなければならないと思う。
- ・ トンボの数と同じくらいカメがいると思われる。今後の課題としてカメの対策をお願いしたい。

5) 連携・協働・モニタリング

- ・ トンボの生息には、環境改善が非常に重要である。そのためには、地域の連携が必要である。
- ・ 植物の表札がもう少しきれいにならないだろうか。特に、裏返っているものとかを改善してほしい。
- ・ 空中写真に樹種を明記した看板を作ってみてはどうか。
- ・ ヤゴの捕獲・放流を通して、児童とトンボ池との関係が再び深まった。
- ・ トンボ池は、県民、町民の自慢であり、維持管理には携わる人々の底辺を広げる必要がある。そのためには、町をあげて取り組むべきである。特に今後は、① トンボ池の環境学習を下羽栗小学校だけでなく、町内の学校に拡大させること。② 港公園、トンボ天国、河川環境楽園を結びつける遊歩道の整備を進めること。③ 国土交通省任せにせず、笠松町をはじめ地元の取り組みを活発にすること。④ 河川環境楽園のパンフレットにトンボ天国を加え、広報活動を行うことが重要であると思われる。
- ・ 環境活動に協力するに当たって児童にとっては、堤防を越えるのが大きなネックとなっている。堤防道路を越えることが容易になれば、トンボ池との距離が縮まるものと考えられる。
- ・ 環境先進国のドイツやイギリスでも、環境学習として住民の知識向上の取り組みを見えるような形で行っている。例えば、イギリスでは、テーブル上に環境学習用のパネルが設置してあり、囲んで座れるような工夫もされている。

トンボ池で、情報を伝える工夫をすることは、来場者の知識を養うことになる。知識はやはり理解につながると考えられるため、そういった整備もぜひ進めていただければと思う。

底辺を広げることは重要だと考えており、自然共生研究センターとしても、トンボ池の教訓と成果を積極的に広報に協力したいと考えている。
- ・ 10年20年先、この再生事業があつて良かったなと県民、町民が思うためには、この場所を知って、その価値を認めることが重要である。
- ・ トンボが増えても沈水植物が増えても、それを情報として発信しなければ価値として認めてもらえない点があると思う。それゆえ、検討会に使われた資料が、地域の教材の資料として積極的に活用されPRすることが、再生された自然を長続きさせるうえで重要かと思われる。

4. その他

<今後の予定>

第5回を平成 24 年度に予定している

5. 閉会